



# ナ・デックスレポート

## 第65期 報告書

平成26年5月1日～平成27年4月30日

証券コード：7435



ごあいさつ

投資家のみなさまにおかれましては、平素より当事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り誠にありがとうございます。

7月28日に当社第65期定時株主総会を経て、代表取締役就任いたしました高田寿之でございます。ここに当社第65期(平成26年5月1日から平成27年4月30日まで)の営業状況を報告し、今後の事業展開についてご説明させていただきます。ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長 高田 寿之

**ナ・デックスの「伝統」と「革新」の融合により、トータルソリューション提案型企業としてお客様のものづくりを総合的にサポートいたします。**

**Q ▶ 社長就任の抱負をお聞かせください。**

私は当社に入社以来約30年間、営業としてお客様の製造現場の声をお聞きしサポートさせていただきました。

営業に携わってきた経験から学ばせていただいた『「信頼」は与えられるものではなく、自ら創り上げるものである』という信念のもと、今まで以上にお客様の視点に立ち、お客様にとって本当に役に立つものは何かを突詰め、お客様のニーズにお応えしていく所存です。

お客様のニーズにお応えするには、トータルソリューション提案力の強化が不可欠であると考えております。

これを実現させるための新方針として「伝統」と「革新」の融合を掲げております。当社が長年築き上げてきた「技術・信頼」という伝統と「新たな発想・価値」を取入れるという革新を「融合」させることによって、よりお客様のニーズにお応えできる信頼される企業グループを目指すというものです。

今回、経営体制を刷新いたしました。この点についても「融合」の視点が色濃く反映されております。我々が長年

継承してきた「伝統」と、新任役員の持つ柔軟な思考、バイタリティ、グローバル感覚等といった「革新」的な要素を融合させることにより、新たな付加価値をもたらすことを期待しております。

これからも当社グループは、お客様の課題をお客様の視点から共に解決し、ものづくりに貢献させていただけるよう、トータルソリューションを提案できる総合力の強化にグループ一丸となって取り組んでいく所存です。



### 当期の営業状況と業績について お聞かせください。

当期の国内経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減があったものの、設備投資の増加や雇用環境の改善が進み、概ね緩やかな回復基調で推移しました。世界経済では、米国を中心に緩やかな回復基調でしたが、中国をはじめとした新興国の減速懸念などが色濃くなってきました。当社グループの主要得意先である自動車関連企業は、国内では消費税率引上げに伴う反動減があったものの、順調な北米販売などを背景に、業績は好調に推移いたしました。

このような環境下で当社グループは、メーカー機能、トータルソリューション提案力の強化に努め、グローバルでの均一で高品質な製品・サービスを提供するための体制構築に取り組んできました。

国内では自動車関連企業を中心に、国内向け設備投資や電子制御機器の販売が順調に増加しました。海外では、米国は自動車関連企業向け自社製品の販売増加、中国は工作機械関連企業向け電子制御機器の販売増加、タイは日系企業が進出する際の設備機器の販売・据付工事に伴う売上が順調に伸長しました。さらに前年度から引続いた円

安効果も、売上・利益両面に貢献しました。

この結果、当期の連結業績は、売上高は大幅に増加し、利益は過去最高を更新いたしました。

※業績の詳細については、4頁、7～8頁をご参照願います。



### 当期の取組みと成果について お聞かせください。

自動車業界を中心とする顧客業界の状況は、世界的に見れば、おかげさまをもちまして好調に推移いたしました。お客様の設備投資動向についても、総じて好調な推移となりました。

特に米国においては、世界で先行して車体全体の軽量化を目的とした新素材を採用した自動車が製造されるようになりました。当社グループは、この動きに先行した技術開発をしていたため、大型案件の受注に繋がりました。これは当社グループが研究開発型企業として実を結んだ結果であると確信しております。

また、海外進出する日系メーカー様からの現地でのサポートニーズが高まっており、これに対して、当社各事業部と現地子会社および現地販売店・代理店が密に連携することで高品質なサービスを提供してまいりました。お客様の海外生産シフトに先行または同期した形でグローバルに高品質な製品・サービスを提供していくことが我々の使命であると考えております。

技術開発面においては、ナ・デックスレーザーR&Dセンターを中心として、昨年9月、国際溶接学会(IIW)にて大手企業各社と産学官連携で研究してきた成果を発表しました。今後は、レーザーワールドオブフォトニクス2015への出展や、今年9月のIIWでの研究発表が控えています。これらの発表テーマは、大気中から真空へと近づけた状態で安

定した溶け込みが得られる溶接工法の研究開発であり、技術的に完成した際には大きな需要が見込めます。

今後も当社グループでは、産学官連携での研究開発に注力し、コアコンピタンスである接合技術のレベルアップを図り、「接合技術のリーディングカンパニー」としての存在価値を高めていきます。

### Q 長期経営ビジョン「NADEX 2025 VISION」についてお聞かせください。

当社グループでは、長期経営ビジョンである「NADEX 2025 VISION」を策定し、ソリューション提供型企业への変革へ向けた取組みを掲げております。そのためには、「事業領域の拡大」と「マーケットの拡大」が不可欠であると考えております。

まず、「事業領域の拡大」のために、研究開発体制の強化および戦略的アライアンスといった手段を用いることで、非鉄金属等の新素材に対する溶接工法の確立や、システム・ソリューションとしてのトータルでの提案力強化を図り、「ワンストップ・トータルソリューション提案型企业」への発展を目指します。

つぎに「マーケットの拡大」というテーマに対しては、米州、東アジア、東南アジア、欧州の各エリアのニーズに即した事業展開により、売上高割合を国内：海外＝50：50を目指すというものです。これは、国内外の双方にビジネスの軸足を置くことで、当社グループのより一層の事業安定化を図るものです。

最終的には、当社グループがお客様の視点から見て「『ナンバーワン』から『オンリーワン』」企業へと成長し、結果として「世界のすべての自動車にナ・デックスグループの技術が関わっている未来」を実現すべく、グループ

丸となって邁進してまいります。



### Q 今期(第66期)の見通しと方針をお聞かせください。

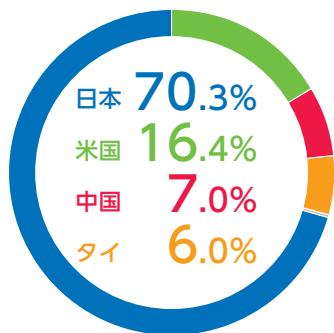
今後日本経済では、雇用環境の改善、個人消費の持ち直しなどにより緩やかな回復傾向が続くと予想されますが、世界経済で見ると、新興国の成長鈍化が進むことが予想されます。今期は、当社グループが日系企業向けに開発を進めた高機能の抵抗溶接制御装置・レーザ、手作業が組込まれた海外工場ライン向けの抵抗溶接制御装置・レーザや、国内で実績を積んだピッキングシステムなどを海外工場に拡販していく営業活動に注力してまいります。

一方、各自動車メーカーが新工場を建設する動きがありますが、これが当社グループの業績に本格的に寄与してくるのは、第67期以降になると見ております。

今期の連結業績は、売上高30,500百万円(前年同期比2.9%減)、営業利益1,300百万円(同39.2%減)、経常利益1,400百万円(同41.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益930百万円(同33.2%減)と減収減益を見込んでおります。しかし、新中期3ヶ年経営計画の中では、短期の業績に捉われない果実の獲得と、企業の持続的成長を描いており、結果として、企業価値の増大、当社グループを取巻く全てのステークホルダーの信頼度、満足度を高めてまいり所存です。

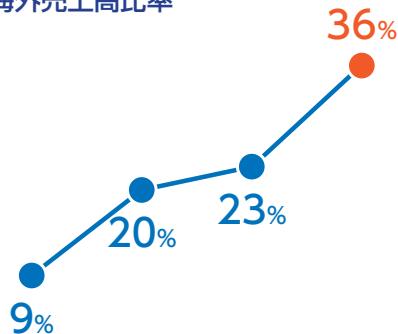
投資家のみなさまにおかれましては、今後とも当社グループの事業へのご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 地域別売上高構成比



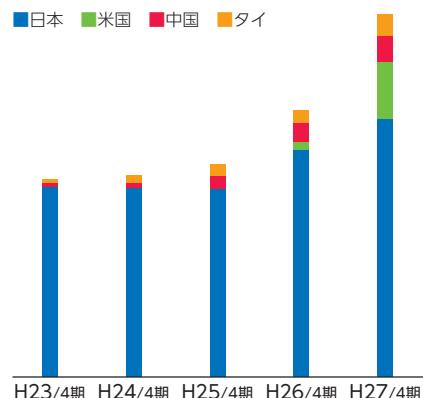
※セグメント間の内部売上高を除く

## 海外売上高比率



H24/4期 H25/4期 H26/4期 H27/4期

## 地域別売上高推移 (単位: 億円)



### 日本

売上高 **233.8億円**  
営業利益 **5.5億円**

日本につきましては、自動車関連企業の国内向け設備投資が順調に推移し、電子制御機器の販売も増加したことなどにより、売上高は233億8千1百万円と前連結会計年度に比べ27億9千6百万円(13.5%)の増収となり、営業利益は5億5千万円と前連結会計年度に比べ1億2千万円(27.9%)の増益となりました。

### 米国

売上高 **52.4億円**  
営業利益 **11.8億円**

米国につきましては、自動車関連企業を中心に自社製品の販売を行ったことにより、売上高は52億4千万円と前連結会計年度に比べ45億1千1百万円(619.1%)の増収となり、営業利益は11億8千7百万円と前連結会計年度に比べ11億1千4百万円(一%)の増益となりました。

### 中国

売上高 **23.6億円**  
営業利益 **2.3億円**

中国につきましては、工作機械関連企業向けの電子制御機器の販売が順調に推移したことなどにより、売上高は23億6千4百万円と前連結会計年度に比べ5億8千1百万円(32.5%)の増収となり、営業利益は2億3千5百万円と前連結会計年度に比べ1千9百万円(9.0%)の増益となりました。

### タイ

売上高 **19.8億円**  
営業利益 **1.9億円**

タイにつきましては、新たにNADEX(THAILAND) CO.,LTD.を連結の範囲に含めたことなどにより、売上高は19億8千2百万円と前連結会計年度に比べ8億4千4百万円(74.2%)の増収となり、営業利益は売上総利益率の改善などにより1億9千万円と前連結会計年度に比べ1億4千5百万円(324.1%)の増益となりました。

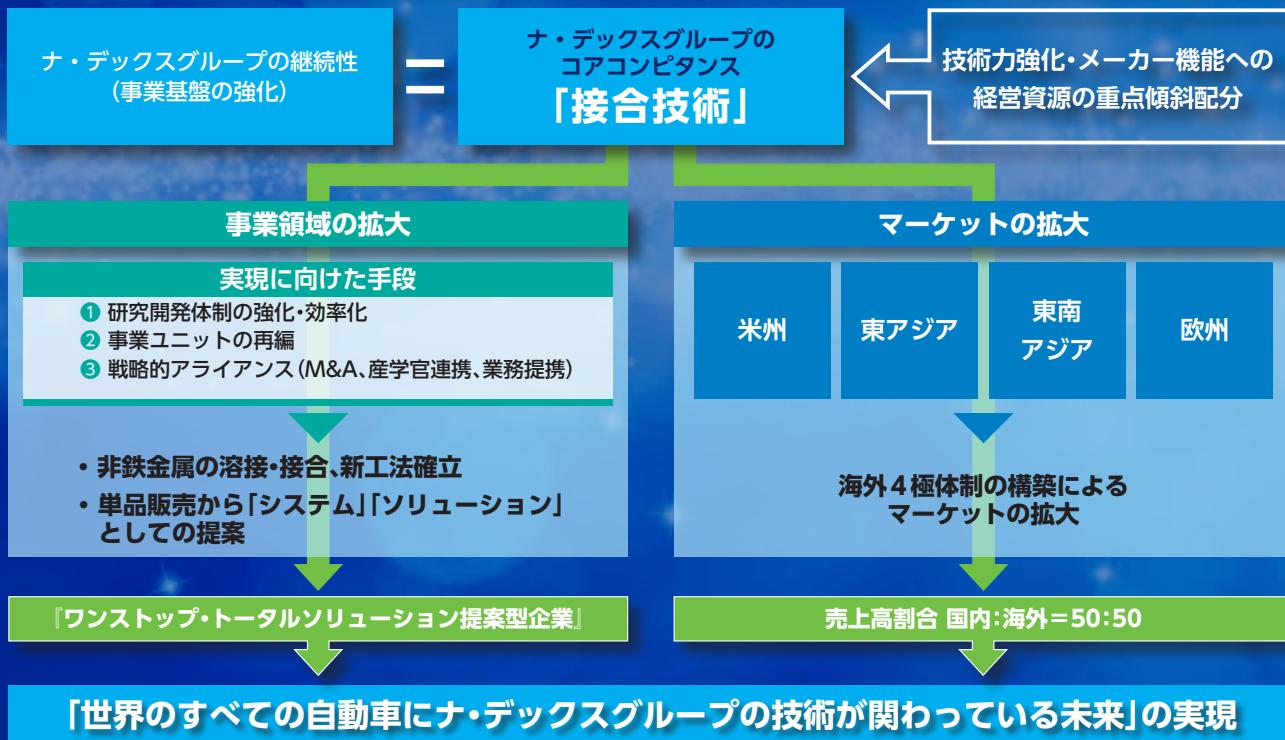
ナ・デックスグループは、2015年度からの新中期3ヶ年経営計画において、中長期ビジョン

# NADEX 2025 VISION

当社グループの事業基盤でありコアコンピタンスである「接合技術」において、「ナンバーワン」から「オンリーワン」になることを目指します。さらに「事業領域」と「マーケット」の拡大を通して、「世界のすべての自動車にナ・デックスグループの技術が関わっている未来」の実現を目指します。

## NADEX 2025 VISION

「ナンバーワン」から「オンリーワン」へ ～競合から独創へ～



として「NADEX 2025 VISION」を策定いたしました。

## 新中期3ヶ年経営計画

当社グループは「NADEX 2025 VISION」へのスタートを切る今年度からの新中期3ヶ年経営計画において、営業、開発、製造および管理の各セクションが戦略を策定しております。

### 営業

- 溶接トータルソリューション提案力の強化、世界戦略製品のリリース
- レーザ加工ソリューション提案力の強化、加工品質モニタリングシステムのリリース
- メーカー機能・エンジニアリング事業の強化、設備設計内製化
- ITソリューション提供体制の強化、海外展開強化(アジア地域)

### 開発

- 適応制御技術の応用・発展(新素材、加工品質)、周辺機器含めたトータルでの開発力強化
- レーザ加工システム・ソリューションの開発力強化、産学官連携による次世代工法開発力強化
- グローバル共同開発体制強化、開発プラットフォーム共通化、技術人材の交流

### 製造

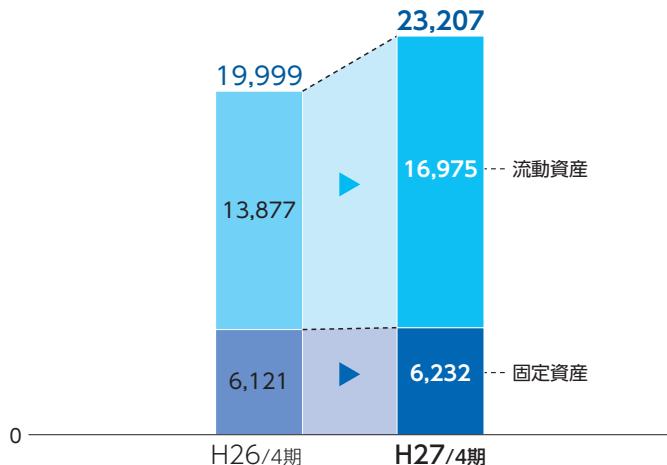
- 自社製品の最適地生産
- ものづくりの標準化、サービスの標準化、製造コストの最小化
- グローバル統一の生産管理システムの構築、品質管理・保証体制のさらなる充実

### 管理

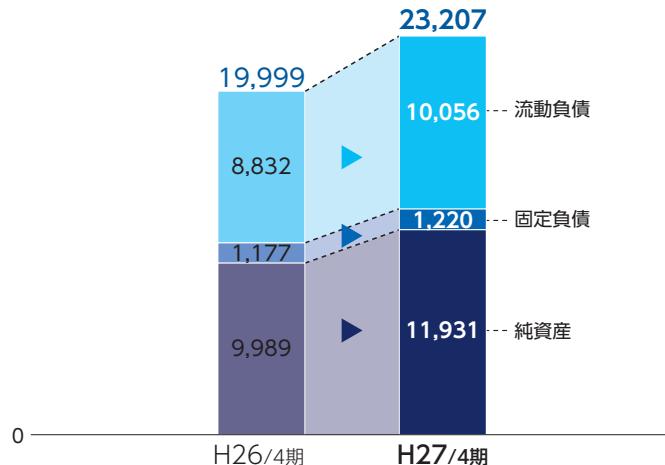
- グループ一体経営の推進
- IT・制度・規程を活用した「仕組み」によるグループ会社のオペレーション支援、ガバナンス・リスクマネジメント機能強化
- 間接コスト削減による収益改善、投資効果・リターンを検証、経営資源ポートフォリオの最適化

## 連結貸借対照表(要約) (単位: 百万円)

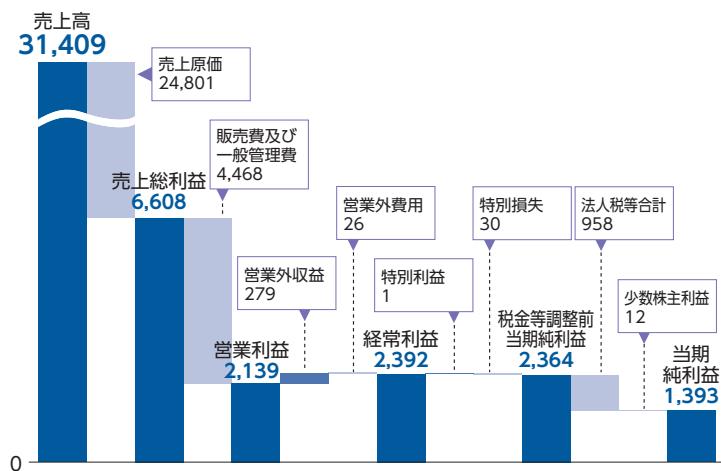
### 資産の部



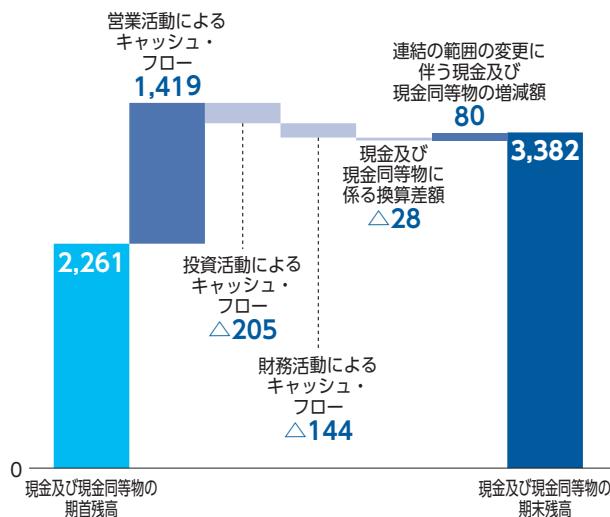
### 負債・純資産の部



## 連結損益計算書(要約) (単位: 百万円)

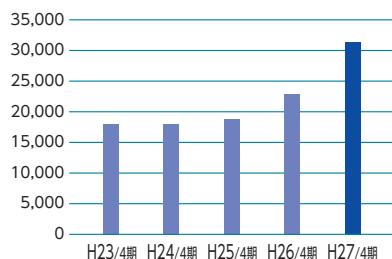


## 連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位: 百万円)



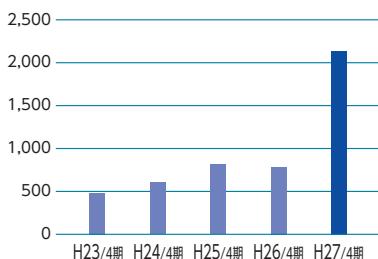
## 売上高

(単位：百万円)



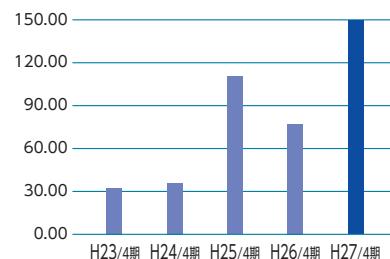
## 営業利益

(単位：百万円)



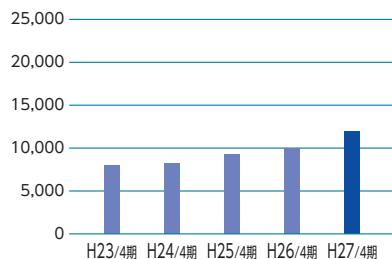
## 1株当たり当期純利益

(単位：円)



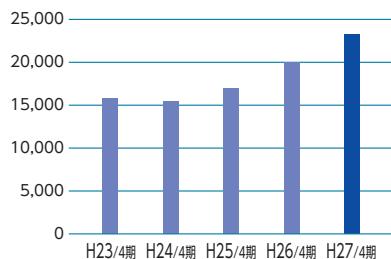
## 純資産

(単位：百万円)



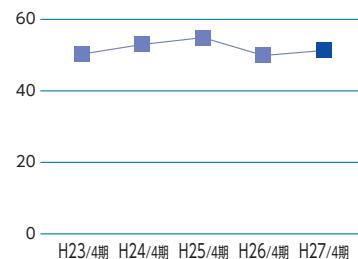
## 総資産

(単位：百万円)



## 自己資本比率

(単位：%)



## 株主還元方針に関する考え方

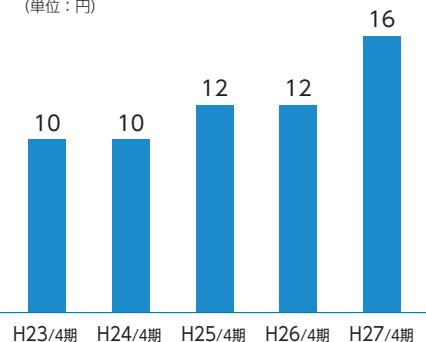
当社の利益配分についての基本的な考え方は、1株当たり配当金を年10円とし、株主への安定的な利益還元を行いつつそれをより高めるとともに、経営基盤、企業体質の強化を図るため、中・長期的見通しに基づき内部留保を厚くして株主資本を充実させることにあると考えております。

当事業年度の配当金につきましては、上記基本方針をふまえて、当事業年度の業績を勘案して、年間としては普通配当10円に特別配当6円を加えた1株につき16円(うち中間配当6円(特別配当1円含む))の配当とさせていただきます。

翌事業年度の配当金につきましては、年間としては普通配当10円に特別配当6円を加えた1株につき16円(うち中間配当8円(特別配当3円含む))とする予定であります。

## 配当金の推移

(単位：円)



## ▶ 会社概要

商 号	株式会社ナ・デックス (英文名/NADEX CO.,LTD.)
本店所在地	名古屋市中区古渡町9番27号 TEL (052) 323-2211
設 立	昭和25年10月
資 本 金	1,028,078千円
従 業 員 数	565名 (連結)、174名 (単体)

## ▶ 役員 (平成27年7月28日現在)

代表取締役社長	高 田 寿 之
常 務 取 締 役	渡 邊 修
取 締 役	古 川 雅 隆
取 締 役	横 地 克 典
取 締 役	進 藤 大 資
取 締 役	本 田 信 之
取 締 役	野 口 葉 子
常任監査役 (常勤)	武 田 吉 保
監 査 役	伊 藤 豊 彦
監 査 役	市 原 裕 也

(注) 1. 取締役野口葉子氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

2. 監査役伊藤豊彦氏および市原裕也氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

## ▶ 株式の状況

発行可能株式総数	40,125,000株
発行済株式の総数	9,605,800株 (自己株式288,190株を含む)
株 主 数	1,134名

## ▶ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アート・ギャラリー富士見	1,400,000	15.02
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	913,000	9.79
古 川 美 智 子	285,000	3.05
古 川 佳 明	272,000	2.91
ナ・デックス社員持株会	212,000	2.27
古 川 雅 隆	211,000	2.26
株式会社三井住友銀行	152,000	1.63
尾 崎 博 明	144,000	1.54
志 野 文 哉	123,000	1.32
株式会社名古屋銀行	120,000	1.28

(注) 持株比率は、自己株式(288,190株)を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。

## ▶ 株式分布状況



### 所有者別の株主数

● 金融機関	11名 (0.97%)
● 金融商品取引業者	18名 (1.58%)
● その他の法人	31名 (2.73%)
● 外国法人等	20名 (1.76%)
● 個人・その他	1,054名 (92.94%)



### 所有者別の株式数

● 金融機関	740,000株 (7.70%)
● 金融商品取引業者	174,455株 (1.81%)
● その他の法人	1,919,600株 (19.98%)
● 外国法人等	1,148,000株 (11.95%)
● 個人・その他	5,623,745株 (58.54%)

▶ 拠点



那電久寿機器(上海)有限公司



WELDING TECHNOLOGY CORP.



NADEX ENGINEERING CO.,LTD.

国内

株式会社ナ・デックス

本社：名古屋市中区  
 東京支店：さいたま市大宮区  
 大阪支店：大阪市淀川区  
 技術センター：愛知県北名古屋市

株式会社ナ・デックスプロダクツ：岐阜県可児市、福井県敦賀市  
 その他の拠点：横浜、四日市、尼崎、岡山、広島、北九州

海外

米国	ミシガン州
カナダ	オンタリオ州
メキシコ	ケレタロ州
中国	上海、広州、天津、杭州
タイ	バンコク
インドネシア	チカラ



ナ・デックス  
本社



ナ・デックス  
プロダクツ



ナ・デックス  
技術センター